

アメリカン
生活困難な人種
制度的人種
添田正揮

河内謙策著『東大闘争の天王山』

「確認書」をめぐる攻防(花伝社)を読む

のは、ソーシャルワーカーの
専門職化と救済法から福祉国
家への変遷を肯定的に捉えて
一部を紹介したものが多かつ
たといえる。それに対して本
り、それを支援者がなぜ、と
て、「社会的多様性の性質に
関する教育を受け、人種、エ
スニシティ、国籍、性的志向、
障害などに関係する抑
圧について理解しなければな
る」ということを捉え
ることはないだろうか。」

(図書新聞第3485号)
2021年2月27日号

東大「確認書」の成立過程を、大学側・学生側の
記録をもとに、予備折衝から忠実に再現

その記録性・実証性・体系性において出色の書

加藤哲郎

河内謙策 著

東大闘争の天王山

「確認書」をめぐる攻防
12・10刊 A5判760頁 本体6000円
花伝社・発行/共栄書房・発売



『昭和天皇実録 第十四』
(東京書籍)一九六八〜六九
年に、当時の学生運動のこと
が三回でとる。すべて佐藤
栄作首相の内奏で、六八年一
二月二六日「佐藤首相の学
生運動を中心とした一般の政
情について、六九年一月一
日「佐藤首相より東京大学
の大学紛争の見通しについて
の説明」、最後は六九年八月
七日、「佐藤首相より国会審
議や大学紛争、及び沖繩返還
問題など一般の政情について
お聞きになる」とある。国会

では大学運営臨時措置法が問
題になっていた。
『実録』一月一日内奏に
「この後、東大紛争は一八日
から一九日にかけて、学生が
立て籠もる安田講堂に警視庁
機動隊が導入され、封鎖が解
除される。これによる被害者
数は約三、七〇名に上る」と
「待従日誌」による補足があ
るためか、いわゆる安田講堂
攻防戦が「天王山」だったか
に見える。当時の東大闘争・
大学紛争について書かれたほ
とんどの記録や研究は、小熊

英二「1968」(新曜
社)をはじめ、全共闘運
動と安田講堂攻防戦に焦
点を当てる。その基礎資
料は、おおむね国会図書
館に入った当時の東大全
共闘議長・山本義隆の収
集資料である。
だが、当時東大に在学
し卒業して社会に出た多
くの学生たちや、天皇に
内奏した佐藤栄作首相に
とっての「天王山」は、
違っていた。「佐藤栄作
日記(朝日新聞社)第三
巻には、沖繩返還交渉
ほどの頻度ではないが大
学問題が多数出てくる。
昭和天皇への内奏の内容
は、首相の側から明確に
なす。なぜ東大が「解体」
されず存続したかが、問わ
れなければならない。
佐藤首相にとっての「学生
騒動」は、当初は「反政府暴
力」の問題だった。六七年九
月の法大、一〇月羽田闘争」
以降降出す。東大は六八年
一月以降、大内閣一男総長
から加藤一郎代りに代わった
ところで「新執行部の決意」
「暴力批判が甘い」を問題に
する。年末に一旦入試中止を
覚悟し、六九年一月から警察
力導入による「正常化」と入
試を天啓にかける。一月二〇

の後は全国的な学生暴力排除
運動が多数出てくる。
「只今の処見青の天下、これ
では入試一慎重にならざるを
えない」。一七日坂田理太文
相と加藤代りの会談で「正常
化」が約束されるが、確認書
の「覚悟をなす考えのない
事が明となった。一八日の
安田講堂は「暴徒の排除で
ゴルフにもドライブにも出
かけず終日アレレ」。二〇日
東大視察。二三日「入試取り
やめを決めた東大の加藤代り
が政府攻撃の声明「平常化
には尚道遠し」と反発。その
料が使われ、A5判七五〇頁
の大書になっている。
著者の所属した法学部自治
会総会委員会の活動や、七学
部代表団法学部代表として自
ら中心の役割を果たした「確
認書」原案作成から大学側と
の予備折衝・人衆団交・決定
・批准過程はとりわけ詳細で
ある。「民青系」のみならず
経済学部代表町村信孝(後の
外相)や法学部学生懇談会等
「スト解除」保守派との各項
目文案作成・合意の裏話など
を知ることがほとんどだ。

政策など、当時の社会情勢や
国際情勢が詳しく述べられ
これらがソーシャルワーカー
の役割や専門職養成教育のあ
り方についての影響を与え
て、その社会的多様性の性質に
関する教育を受け、人種、エ
スニシティ、国籍、性的志向、
障害などに関係する抑
圧について理解しなければな
る」ということを捉え
ることはないだろうか。」

河内謙策の本書「東大闘争
の天王山」は、佐藤首相の当
時危機した東大「確認書」の
成立過程を、大学側・学生側
の記録をもとに、予備折衝か
ら忠実に再現する。大学側で
は公式「告示」「提案」のほ
かに加藤総長代りと坂田文相の
秘密会談、自民党文芸教養の動
き、評議会・各教授会記録、
共闘会議との裏交渉、学生側
では本郷・駒場各学部・大学
院院研究科学生大会出席者数
・各提案の賛否票数まで記
録。自治会や各党派・学生グ
ループのさまざまなシラや新
聞・雑誌記事など数百点の資
料が使われ、A5判七五〇頁
の大書になっている。
著者の所属した法学部自治
会総会委員会の活動や、七学
部代表団法学部代表として自
ら中心の役割を果たした「確
認書」原案作成から大学側と
の予備折衝・人衆団交・決定
・批准過程はとりわけ詳細で
ある。「民青系」のみならず
経済学部代表町村信孝(後の
外相)や法学部学生懇談会等
「スト解除」保守派との各項
目文案作成・合意の裏話など
を知ることがほとんどだ。

本の社会的責務や役割を認め
る。マイノリティとされる
人々が自らの人生を歩んでい
くためのエンパワーメントの
実践を追及することは、社会構
造の変革をも意味してい
ないか。
(日本福祉大学社会学部
准教授)